

2010年度  
事業報告並びに  
収支決算報告書

事業年度 自 2010年 1月 1日  
至 2010年12月31日

2010年度 社団法人 鶴岡青年会議所 スローガン

# 実践躬行

～信念で行動する Jaycee が未来を切り開く～

# 一年を振り返って



2010年度 社団法人 鶴岡青年会議所

理事長 **佐藤 正廣**

第44代理事を拝命してより一年、年度当初より掲げた実践躬行のスローガンに従い、当会議所のすべての事業に対し、真摯に取り組んでまいりました。

まずは事業運営にあたり共に汗を流した会議所メンバー全員に心より感謝を申し上げさせていただきます。また2010年度の事業遂行にあたり、ご支援ご協力を賜りました諸団体の皆様、会議所OB・OG諸兄にも併せて厚く御礼を申し上げます。

今年度は、長引く景気低迷や法人制度改革といった社会変革の過渡期であり、当会議所としては、向こう10年の青年会議所活動の趨勢を占う大切な一年として捉えておりました。

そして「議論も大切ではあるが、求められているのは力強い実践である」との考えからこれまで同様に公益事業にも積極的に取り組むと同時に、記念すべき第二十回を迎えた赤川花火大会記念事業や伝統芸能から日本古来の精神性を学ぶ公開事業まで新たな形式での事業にも挑戦させていただきました。

結果、今年度においては、多くの会議所メンバーに新たな気付き、新たな思いを与えられたと自負しております。この成果を持って次年度、当青年会議は45周年を迎えます。

これまでの45年に恥じず、今後の45年を誓える会議所としての更なる飛躍を期待して結びとさせていただきます。一年間、ありがとうございました。

2010年度 社団法人 鶴岡青年会議所 会員数

2010年度 1月1日 会員数 89名

2010年度 入会者数 23名

2010年度 退会者数 8名

2010年度 卒業者数 8名

2010年度 12月31日現在 会員数 112名

## 2010年度 社団法人 鶴岡青年会議所 事業内容

### 1月

7日	第1回常任理事会	JC会館
13日	第1回理事会	JC会館
15日	第87回定時総会	東京第一ホテル鶴岡
15日	1月例会 「事業説明会・新春祝賀会」	東京第一ホテル鶴岡
21～24日	日本青年会議所 「京都会議」	京都
23日	東北地区協議会 「第1回会員会議所会議」	京都
23日	日本青年会議所 「第132回通常総会」	京都
30日	山形ブロック協議会 「第1回会員会議所会議・アカデミー開校式」	東根

### 2月

4日	第2回常任理事会	JC会館
16日	第2回理事会	JC会館
17日	2月事業 「第一エリア山形ブロック協議会 会長公式訪問」	庄内中央
20日	2月例会 「「OMOIYARI」を实践できる地域環境の整備事業」	グランド エル・サン

### 3月

4日	第3回常任理事会	JC会館
11日	第3回理事会	JC会館
17日	3月例会 「受験に！スポーツに！己に！打ち勝つ「勝負脳」教育術！！」	出羽庄内国際村
20日	山形ブロック協議会 「第2回会員会議所会議」	東京
21日	日本青年会議所 「第133回通常総会」	東京

### 4月

1日	第4回常任理事会	JC会館
8日	第4回理事会	JC会館
15日	4月例会 「新入会員歓迎会」	出羽ホテル
24日	山形ブロック協議会 「第3回会員会議所会議」	山辺
28日	第5回常任理事会	JC会館

## 5月

- 8日 会頭公式訪問 村山
- 13日 第5回理事会 JC会館
- 15日 5月事業 「わんぱく相撲鶴岡田川地区大会」 鶴岡市小真木原運動公園相撲場
- 23日 5月例会 「出羽庄内観光再認識事業～羽黒でドン大作戦～」 庄内映画村
- 29日 山形ブロック協議会 「第4回会員会議所会議」 酒田

## 6月

- 3日 第6回常任理事会 JC会館
- 3～6日 国際青年会議所 「AREA B会議 (ASPAC)」 シンガポール
- 10日 第6回理事会 JC会館
- 13日 6月事業 「わんぱく相撲山形ブロック大会」 庄内町
- 17日 6月例会 「みんなで防ごう 今ここにある危機！！」 出羽庄内国際村
- 20日 6月事業 「環境衛生事業」 三瀬海岸
- 26日 山形ブロック協議会 「第5回会員会議所会議」 長井

## 7月

- 1日 第7回常任理事会 JC会館
- 8日 第7回理事会 JC会館
- 10日 山形ブロック協議会 「第6回会員会議所会議」 東根
- 11日 山形ブロック協議会 「第43回 山形ブロック会員大会 東根大会」 東根
- 23日 7月例会 「認承証伝達式」 東京第一ホテル鶴岡
- 24～25日 日本青年会議所 「サマーコンファレンス 2010」 横浜

## 8月

- 1日 8月事業 「わんぱく相撲全国大会」 両国国技館
- 5日 第8回常任理事会 出羽庄内国際村
- 8日 8月例会 「第二十回赤川花火記念大会運営協力」 赤川河川敷
- 12日 第8回理事会 出羽庄内国際村

**9月**

2日	第9回常任理事会	JC会館
9日	第9回理事会	JC会館
16日	第88回定時総会	出羽庄内国際村
16日	9月事業 LOM ビジョン策定事業「幸衛の部屋」	出羽庄内国際村
19日	9月例会 「公益社団法人日本青年会議所第58代会頭安里繁信氏講演会 「我が地域における青年の役割とは」	東京第一ホテル鶴岡
25日	山形ブロック協議会 「第7回会員会議所会議」	山形
30日	第10回常任理事会	JC会館
30～10月3日	日本青年会議所 「第59回全国会員大会 小田原大会」	小田原

**10月**

1日	日本青年会議所「第134回通常総会」	小田原
7日	第10回理事会	JC会館
14日	10月例会 「地域食育再発見提言型事業」	グランド エル・サン
30日	山形ブロック協議会 「第8回会員会議所会議・アカデミー卒業式」	寒河江

**11月**

2日	第11回常任理事会	JC会館
2～7日	JCI世界会議	大阪
11日	第11回理事会	JC会館
16日	11月例会 「落語に学ぶ OMOIYARI のこころ」	鶴岡市文化会館
25日	第12回常任理事会	JC会館
27日	山形ブロック協議会 「第9回会員会議所会議・卒業式」	村山

**12月**

1日	第12回理事会	JC会館
4日	新入会員事業 「クリスマス家族会」	東京第一ホテル鶴岡
9日	第89回総会	グランド エル・サン
9日	12月例会 「卒業式」	グランド エル・サン

# 1 月例会

## 「事業説明会・新春祝賀会」

2010 年度(社)鶴岡青年会議所のスタートにあたり、御来賓・賛助会員・OBOG 会員に今年度の事業説明を紹介することにより我々の活動を理解して頂き、これからの JC 活動がより円滑に行われるようにすることを目的として、新春祝賀会が行われました。



新年の挨拶



よいしょ よいしょ よいしょお〜

## 2 月例会

### 「OMOIYARI を実践できる地域環境の整備事業」

山形県立鶴岡養護学校の生徒・ご家族と JC メンバーと一緒に「ふれあい陶芸教室 OMOIYARI in 鶴岡」を開催。鶴岡養護学校の教頭先生によるセミナー、松岡陶芸教室下妻さき子先生との陶芸体験教室、メンバー全員での餅つき大会を通じて、障がい者への理解や、OMOIYARI をもった食事介助を実践することができました。



陶芸教室



講師 土田 哲 教頭先生



## 3 月例会

### 「受験に！スポーツに！己に！打ち勝つ「勝負脳」教育術！！」

日本大学大学院医学研究科博士の林成之教授を招致して、公開講演を行いました。

当日はあいにくの天気となりましたが、大勢の公聴者が来場され、用意された300席はほぼ満席となりました。



講師 林成之 教授入場



公聴者の皆様方

## 4 月例会

### 「新入会員歓迎会」

仮入会された新入会員を1名ずつプロジェクターで紹介しました。その後歓談の場で現役メンバーより新入会員へJC運動の楽しさや達成感を伝えました。



新入会員(仮)



歓談の様子



自己紹介と豊富

## 5 月例会

### 「出羽庄内観光再認識事業 ～羽黒でドン大作戦～」

鶴岡観市光連盟および地域の観光事業者の協力を頂き、庄内映画村オープンセットを同日訪れた観光客を対象に出店ブース内にて地域の特産物(海農畜産物)の展示販売を行ないました。

庄内映画村との共催により集客した 1500 名の観覧客に対して赤川花火大会本番前のプレ大会として花火(小型煙火、4号玉)を打ち揚げました。



実行委員挨拶



第 20 回赤川花火  
記念大会テーマ披露

## 6 月例会

### 「みんなで防ごう 今そこにある危機!!」

鶴岡警察署 刑事2課 課長 大津辰雄氏より振り込め詐欺をはじめとする各種詐欺の事例紹介をしていただき、詐欺への対処法を学びました。

その後、庄内農業高校演劇部と地域力創造委員会の詐欺事件の事例の寸劇上演を拝観し、詐欺の怖さを実感いたしました。最後に、クイズ形式の自己診断を行い、危機管理に対する意識の改革が行われました。



大津辰雄刑事課長による講話



危機管理クイズ

# 7月例会

## 「第43回山形ブロック会員大会 東根大会」

7月12日 東根市さくらんぼタントクルセンターにおいて第43回山形ブロック会員大会 東根大会が行われました。「輝～つよく・やさしく・たくましく～」をテーマにブロック役員、各LOM理事長の紹介が行われ、松岡ブロック会長により山形ブロック協議会の事業、青年会議所の活動が紹介されました。メインフォーラムでは講師に坂本光司先生をお迎えし「日本でいちばん大切にしたい会社に学ぶリーダーの心」という演台で講演をいただきました。



大会式典



出向メンバーの活躍



赤川花火ヨロシク!

## 8 月例会

### 「第二十回赤川花火記念大会運営協力」

8 月 8 日(日)赤川河川敷において第二十回赤川花火記念大会が行われました。天候に恵まれ過去最高の観客動員がありました。たくさんのご来場ありがとうございました。



カウントダウン！



夜空を彩る花火



## 9 月例会

### 「公益社団法人日本青年会議所第 58 代会頭安里繁信氏講演会」 「我が地域における青年の役割とは」

9 月 19 日(日)東京第一ホテル鶴岡 鶴の間にて第 58 代会頭安里繁信氏をお招きし、地元企業の若手経営者の方や他青年会議所の方 108 名が参加しました。これからの地域のリーダーはどうあるべきか。企業のリーダーはどうあるべきかを分かり易く、講師の経験を踏まえてご講演頂きました。参加された皆さんからは非常に好評で、講演を聴く前と聴いた後では考え方が変わったという感想が多数ありました。



第 58 代会頭安里繁信氏



皆さん真剣に耳を傾けていました

## 10月例会

### 「食育」って何だろう？～今こそ考える、「食」の大切さ・「育む」食文化の伝承～

10月14日(木)グランド エル・サン ローズルームにて「食育」って何だろう？～今こそ考える、「食」の大切さ・「育む」食文化の伝承～が開催されました。私達、ひとり一人が健全な食生活の実現、食文化の伝承等が図れるよう、自らの「食」について考える習慣や、「食」に関する様々な知識と、「食」を選択する判断力を身に付ける為に「食育」が必要と考え、服部幸應氏をお招きし「食育」について講演会を行いました。



理事長と服部氏



服部氏と奥田シェフ



# 11月例会

## 「落語に学ぶ OMOIYARI のころ」

11月16日(火)鶴岡市文化会館 ホールにて11月例会が開催されました。

落語家 立川志らく師匠の人情噺を通じ、参加された多くの方々が円滑なコミュニケーション・人間関係を築く上でOMOIYARIの心の重要性について再認識して頂けたことと思います。



立川志らく師匠による落語



理事長と志らく師匠

# 12月例会

## 「卒業式」

12月9日(木)グランド エル・サン ローズルームで「卒業式」が執り行われました。

阿部出委員長のオープニングムービーで始まり、卒業生がそれぞれのテーマソング(?)で入場しました。佐藤正廣理事長より卒業生へ感謝状が授与され、卒業生一同からは記念品が贈呈されました。現役メンバーから卒業生への追い出し状は、楽しい思い出をもとにそれぞれ工夫された演出で行い、会場は終始笑いに包まれていました。

答辞では卒業生一人ひとりが今までのJCライフを振り返り、現役メンバーに思いを伝え、笑いあり、感動の涙ありの卒業式でした。



卒業メンバー



♪明日のために♪

# —2010 年度を振り返って—

副理事長 相馬 大

---

混沌が渦巻く社会の中で、未来を切り開くものは何でしょうか。未来を想い描くこと。それを語る仲間がいること。そして、そのような人が一人でも多くなること。それが地域力となり、未来を創っていくと私は信じています。私ができることは些細なことです。しかし JC の仲間と一緒に活動することで、小さなことかもしれませんが、未来につながる事ができる。そう考え、2010 年の活動に参加してきました。

二つの室、三つの委員会で行ってきた地域に向けた活動は、10 年後、20 年後のこの地域の誰かにとって、必ず必要なものになると確信しています。そして、事業を組み立て、実行した JC の仲間の歩みに、確実な推進力を付加したと思います。

明るい豊かな社会、地域のために何をすべきか、という答えはありません。ただ、一人でも多くの方が、それに向けて意思を示すこと。それが今できる最大の答えではないでしょうか。鶴岡青年会議所の活動は、明るく豊かな社会への私たちの明確な意思を発信したと考えています。

最後になりますが、事業にご参加いただきました皆様、支えていただいたメンバー、二人の室長、そして力を発揮してくれた委員長をはじめとする委員会メンバーに感謝申し上げます。

副理事長 神林 守

---

本年、赤川花火大会は 20 回の記念大会を迎えることが出来ました。

鶴岡青年会議所最大の事業であり、唯一無二の継続事業である赤川花火大会は、全く 0 から我々の先輩が作り上げた事業であり、今では出羽庄内鶴岡の最大のイベントに成長する事ができました。

私は本年、そのフロンティアスピリッツを受け継ぎ、自分の JC における集大成と位置づけ活動してまいりました。

20 回の節目の年にふさわしい大会にすべき、5 月の記念式典、記念花火も含め 1 年間をフルに使って活動出来たと思います。

様々な新しい試みとともに、今まで受け継いできたものをより強固なものとし、色々な意味で良い大会を作り上げることが出来たと思っております。

今後も地元出羽庄内鶴岡が誇れる事業にすべき、担当者の方々が知恵をしばって進化させてくれることを期待致します。

L O M運営グループ 専務理事 阿部 勝

2010年度は入会4年目で卒業年度の専務理事という異例であり、得難い役職を担わせていただきました。理事経験も副委員長としての1年しかなく右も左も解らない私を理事長はじめ理事の皆様そして事務局メンバーに支えていただき、何とか担いを終えることが出来ます。この1年間は『J Cとは』、『専務理事とは』、『鶴岡青年会議所とは』、常に自問自答しながら手探りの運営で皆様にご迷惑をお掛けしたことをこの場をかりてお詫び申し上げます。そして至らない私を助けて頂いた事務局のメンバーに心から感謝いたします。人と人の繋がりでJ Cの魅力を知った私が、人と人を繋げることの大変さを実感させられた1年でもありました。1年間という限られた期間で『志を同じう』することがJ Cで云う処の不連続の連続を成し遂げる為にいかに重要かを実感いたしました。京都会議から始まり小田原での全国大会まで、各種大会等に参加する機会を得て、今まで経験したことのない発見や気づきを頂き、全てがよい思い出となりました。最後に拙い私に専務理事としての担いを頂き、力不足のところを後見していただいた佐藤正廣理事長に心からの敬意と感謝を気持ちを表します。1年間本当にありがとうございました。

地域未来創造室 室長 結城俊一

今年度地域未来創造室室長として一年間活動させていただいた事まずは、皆様ありがとうございました。佐藤理事長、阿部専務には前年から引き続きお世話になりっぱなしで重ねてありがとうございました。相馬副理事長とはたぶん初めてやらせていただきましたが、大変忙しい中ご指導いただきありがとうございました。木村委員長・井上委員長においては、私のような頼りない室長と一緒に一年間がんばって頂いたこと本当にありがとうございました。筒井副委員長・加藤副委員長においては私以上に委員長の支えになっていただき誠にありがとうございました。そして、両委員会メンバーにおいても委員会を盛り上げ支えて頂きありがとうございました。次年度この委員会から理事・常任メンバーが多く出たこと大変うれしく思います。不甲斐ない室長でしたが、皆様と一緒に一年間この地域のために運動できた事誇りに思います。皆様から学ばせて頂いた事私自身大変多くありました事に感謝申し上げます。

「実践躬行」一年間ありがとうございました。

日本一赤川花火室 室長 上鉢功一

今年一年を振り返って、まずは大きな事故も無く第二十回赤川花火記念大会を無事にそして成功のもと終える事ができたことに大変ありがたく感謝しております。また、5月には第二十回の大会を記念して庄内映画村株式会社様の共催で記念花火も打ち上げさせていただきました。まさか一年に二回も、しかも卒業の年に花火を打ち上げられるとは思っていませんでした。今思えば自分に花火の室長が務まるのか心配でしたが卒業の年に燃え尽きたいという思いもあり頼りない室長で皆様にご迷惑をおかけしましたがやれて良かったです。また色々な面で気づきや勉強にもなりました。日本一赤川花火委員会メンバーのみんな、そして赤川花火大会実行委員会に出向していただいたメンバーの皆様に感謝申し上げます、一年間ありがとうございました。

LOM運営グループ策定会議 副議長 佐々木一広

---

今年度は佐藤理事長の格別なご配慮をいただき、特別財政局長として活動させていただきました。公益申請を行うにあたり、9月の総会より予算書等の書式を変更するなど予定外の作業が伴いましたが、LOMビジョン策定会議の皆さまや阿部専務のご協力により、ほぼ終了する事が出来そうです。ありがとうございました。

現役最後の総会にて上程時に一言、出席していたメンバーには申し上げましたが、自分たちの納めている会費をはじめ、OBや賛助会員企業、関係諸団体などから協力いただいた貴重な財源がどの様にして執行されているのか今一度関心を持ってください。そして、自らその執行する事業に参画するようお願いいたします。卒業予定者が一人で財政を担当する状況の中、うまくLOMの財政関連を伝える事が出来たかは分かりませんが、次年度の担当者に託したいと思います。

LOM運営グループ 会員拡大推進チーム リーダー 小池昌和

---

私は、ブロックアカデミー塾生として出向経験があり、以来なぜかいつかは塾長という役職をやってみたいな、という想い・憧れがありました。

今年度の会員拡大チームリーダーの話を頂いた時、そんな塾長に近い役職かと思い、喜んで仰せつかりました。そんな思いも後押ししたのか、「拡大大変だろ？」の声をよそに、スタッフにも恵まれ私個人としては本当に楽しく活動できた1年間でした。

拡大活動の感想としては、色々言いたい事はありますが、一言でまとめれば「拡大は1年にして成らず」です。

沢山の訪問・出会いの中で、門前払いの企業や、「忙しいので無理です」と一言で片づけられたり、正直心が折れそうになった事も何度もありましたが、そんな中、「毎年誘われていて、そのうち入りたいと思っていました」や「今年は無理ですが2～3年後位には入りたいです」との声も多く、志の高い青年は、「ほんの少しの後押しで入会するのだな」と思いました。見ている人は見えています。

今後も赤川花火大会を始め、質の高い事業を続け、地域の人達に必要とされる団体であれば、きっとより多くの青年が入会してくれる事と確信しました。

最後に、今年度会員拡大活動にご協力して下さいました皆様と、今年度入会を決意してくれた23名の新入会員、それを快諾して下さいました企業代表者様へ御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

---

2010年度は、社団法人鶴岡青年会議所に入会以来、4年目にして初めての委員長職を経験し、本当に貴重な時間を過ごさせて頂きました。委員長として、委員会メンバーの皆様と共に、青少年の健全な育成を図る為に、自己の信念を貫き、実践躬行していくことを目標に活動して参りました。

主な活動内容としては、“わんぱく相撲”に関わる事業遂行と、“食育”をテーマにした提言型事業の開催を企画・運営致しました。わんぱく相撲では、相撲を通じて心身の鍛錬に励み、勝者を称え、敗者への思いやりを育むことを子供たちに伝えつつもりましたが、それと同時に我々が子供たちから学ばせてもらった事も多くありました。特に、山形ブロック大会における鶴岡チームの団結力の強さには、監督の先生を始め、応援する皆が感動させられたことを、今でも鮮明に記憶しております。また、食育事業では、改めてこの地域の食の豊かさに触れることができ、講演会における多くの参加者数からも、食に対する関心の高さを垣間見ることができました。今後も家庭や職場を通じて、食の重要性を、更に皆様と共に追求して行ければ幸いと存じます。

一年間の活動を終え、ご指導頂いた担当副理事長ならびに担当室長、そしてお互い切磋琢磨した副委員長に衷心より深謝すると共に、ご協力頂いた委員会メンバーと全ての皆様に厚く御礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

---

青少年未来育成委員会では、鶴岡青年会議所の継続事業であります「わんぱく相撲」を担当させていただきました。子供たちは他のスポーツ少年団と相撲の練習との両立で大変ハードなスケジュールでしたが、5月の地区大会から始まりブロック大会、全国大会と最後まで頑張ってくれました。当初の相撲教室での練習では泣きながら相撲をとっていた子供たちが、日々たくましく成長していく姿には私自身励まされ、無条件に感動させられました。また、ご協力いただいた鶴岡相撲連盟、ご父兄の方々、関係各位の皆様にはこの場をお借りしまして御礼申し上げます。

もうひとつの担当例会10月の食育事業では、鶴岡市立藤島小学校にて「特別授業」と地元食材を使った給食の提供を行いました。子供たちと一緒に授業を受け、給食を食べながらの歓談は生涯忘れられないものとなりました。同日、服部幸鷹氏をお招きしての夜の講演では、講師の経験を交えた食の大切さ、食卓での躰けの重要性など貴重なお話を聞くことができました。これをきっかけとし自分の家庭から食育を実践躬行していきたいと思えます。最後に、少しでも地域の子供たちの記憶に残る事業と成り得たのであれば幸いです。

地域未来創造室 地域未来創造委員会 委員長 井上 崇

---

2010年度は地域未来創造委員会委員長として、2月の3LOM合同事業の打ち合わせから始まり、7月の七夕献血への参加、7月の認証承伝達式、11月の「落語に学ぶOMOIYARIのころ」と題した公開例会まで、あっという間に過ぎ去った気がします。初めて事業を行う委員長を務めさせて頂いたことで、準備する大変さよりも充実感・やりがいを感じ、その過程を通じて自分の思いを他人へ言葉で伝えることの難しさを痛感し、メンバーからは行動を通して多くのOMOIYARIの心を受け取りました。残されたJ a y c e eとしての期間は1年間ですが、少しでも恩返しができるように努めていきたいと思っています。最後になりますが、この1年間を通して相馬副委員長、結城室長、加藤副委員長を始め、委員会メンバーには未熟な委員長を支えて頂きまして、大変お世話になり本当にありがとうございました。

地域未来創造室 地域未来創造委員会 副委員長 加藤徳子

---

早いもので、2010年度も終わりを迎えました。1年が過ぎるのを早く感じることは多くありますが、今年度は格別に早く感じました。鶴岡青年会議所へ入会して3年目に、佐藤正廣理事長より「理事やりますか。」と、声をかけて頂きました。正直、セクレタリーとして理事会を見てきて、自分に勤まるのか不安でした。しかし、理事長の、「頼まれ事は、試され事。」という言葉が「やってみよう…」という気持ちにさせてくれました。年度初めは、井上委員長を支えて出来る限りやろう。という気持ちでしたが、実際には事業計画書作成や理事会での上程など、訳の分からない事ばかりで委員長におんぶに抱っこでした。室事業でも11月公開例会と、初めての販売収益の入る事業を担当し、委員長が頭を抱えている時も力になれなかったような気がして、今でも申し訳なく思っています。ただ、担当事業がすべて終わった時には、「大変だったけどやって良かった。」と、思えました。最後の理事会まで発言する時は緊張しっぱなしでしたが…。私は来年1年で卒業ですが、これからまだまだ活動していくメンバーの皆さんには、理事の経験はもちろん。是非、色々な経験をして頂いて、自分を成長させる肥しにして頂きたいと思います。

地域未来創造室 地域力創造委員会 委員長 木村修平

---

今年一年、掘り起そう地域の力！繋ぎ合せよう皆の意思を！～実践躬行！誇りを胸に～ というテーマを掲げて委員会をスタート致しました。公開例会を3つ担当するという事でとても不安を感じてのスタートでしたが、委員会メンバーやそれ以外の委員会の方々のサポートを受けて、問題など抱えながらも、なんとか終わることができました。周りの方から見ると頼りない委員長だったことと思います。正直に言えば、とても満足いく結果ではなく、もっとやれることがあったのではないかと反省するところだらけでした。この失敗を生かし、今後役に立ていけるよう、反省するだけでなく検証を進め、今年一年が無駄にならないようにしていきたいと思っています。最後に、色々アドバイスをいただいた皆さんに感謝し、この御恩を後輩に繋げていくことで今年の自分自身の総括りとしたいと思っています。今年一年支えていただいた皆さん、本当にありがとうございました。

地域未来創造室 地域力創造委員会 副委員長 筒井重浩

---

JCの魅力のひとつに、毎年新たなメンバーとの出会い、そして1年を通じて交流を深めていくというのがあるかと思えます。

2010年は前年の予定者段階から、理事メンバーである結城俊一室長そして木村修平委員長とは、何度か杯を組み交わす機会に恵まれ、少しずつ次年度に向けての気運を高めて行きました。

そして迎えた12月某日。衝撃の出来事が待ち受けておりました。

委員会メンバーの予定が会わず、会場である温海温泉・かしわや旅館の齋藤武大くんを加えた4名での忘年会。

あの百戦錬磨の結城室長にして『こんなのは初めての経験だ』と言わしめた楽しい一夜。

記憶にも記録にも残るものになりましたね。

どんなものだったのか・・・それはここではとても申し上げられません。

結城室長そして木村委員長の卒業式を担当する未来の委員長様。

二人を「追い出す」にはあまりあるネタ・データがございます。ご一報下さい。

そんなこんなで、お二方、そして委員会メンバーの皆さん。力不足の“吹く委員長”でしたが、とても楽しく有意義に過ごせた1年でした。この場をお借りいたしまして、深謝いたします。

地域連携発信室 連携推進委員会 委員長 阿部 出

---

当委員会は1月例会「新春祝賀会」から始まり7月例会「ブロック会員大会」、12月例会「卒業式」を担当しました。初めて委員長を経験しましたが、うまく自分の考えを説明し、委員会をまとめて、事業を作り上げる事がいかに難しいか痛感させられました。それでも個人的にはいい経験をさせて頂きましたし、3事業を成功に終わる事ができたのは担当副理事長と担当室長に貴重な助言を頂き、副委員長をはじめ、委員会メンバーの皆さんからの協力があったからだと感謝しています。ありがとうございました。

地域連携発信室 連携推進委員会 副委員長 佐藤正勝

---

今年度、はじめて副委員長として委員会の運営に携わり1月例会・7月例会・12月例会を、開催させて頂きました。毎年の恒例事業という事もあり、成功してあたりまえ感が個人的にはあり、プレッシャーを重く感じていた1年のように感じます。

そして、例会運営する上で様々な方との出会い、たくさんの築きを得ることができ、実りのあるものでした。

最後に、この1年初理事という事で、ご指導ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。



「情熱花火」感謝・躍動・感動

第二十回赤川花火記念大会の大会テーマです。昨年、この日本一赤川花火委員会委員長の役職を仰せつかり、はじめて赤川花火について自分自身考えました。

「目指せ！感動日本一」を合言葉に掲げるこの大会は今や全国に誇れる大会へ成長しております。そして今年は二十回を数える節目の大会、「赤川花火」に対する「期待」は地域の方々のみならず全国各地からあり、その結果が過去最高の観客動員、近年最高の協賛金額の数字に表れました。運営に関してプレッシャーは多々御座いましたが、メンバーの皆様、地域の皆様、赤川花火を期待している皆様、そして地権者の皆様の応援が心の支えとなり、何度も地権者の皆様と話し合いを行い今回 11 年ぶりとなる 20 号玉 3 発同時打ち揚げが実現出来ました。これは我々の諸先輩より受け継がれた「赤川花火」への「情熱」が想いを叶えさせてくれたものと実感しております。

これから赤川花火は回数を重ねていきますが、この情熱があれば、赤川花火が抱える様々な問題に立ち向かい、さらに飛躍出来るものと感じております。

最後に、夜遅くまで準備に明け暮れた委員会メンバー、そんな花火委員会に協力してくれたメンバーの皆様ありがとうございます。皆様のおかげで大きな事故もなく大会を終了する事が出来、大きな感動を与える事が出来ました。「赤川花火」に関わる全ての方に感謝致します。おかげさまでありがとうございます

---

LOM ビジョン策定会議 総括 今間智寛

---

2005年に入会し、2006年の時には会務セクレタリーを仰せつかりました。その当時、LOM内や山形ブロック協議会などでも公益法人セミナーなどが開催され、私も訳も分からずセミナーに参加し、公益法人について勉強した覚えがあります。その当時は「その時が来れば誰かがやってくれるだろう」という安易な考えでございました。そんな中でまさか自分が公益法人格の申請を行う事になるとは夢にも思いませんでした。公益法人格を取得するという事はLOMの全体の事に対してプロフェッショナルでなければなりませんし、申請に関してはスピーディーに対応しなければなりません。ですから、LOMメンバーが「誰かがやってくれるだろう」という安易な考えでは申請・取得は難しいですし、取得後にスムーズなLOM運営が出来るかとなると疑問が残ります。(社)鶴岡青年会議所で公益法人格を目指す以上、私も精一杯頑張りますし、メンバーが一丸となって頑張らなければいけないと思います。そして、担当した9月例会では安里直前会頭をお招きしての講演会を開催致しました。この講演会は地域の若手経営者や企業の若手従業員の方を対象に開催しました。一番印象に残ったのは参加した友人が、参加する前と参加した後では考え方が変わったと言われた事が印象に残りました。参加者は当初の計画よりも少なかったですが、参加者からは非常に好評でとても良い例会になったと思いますし、この事業に参加された方が来年鶴岡青年会議所の門を叩いてくれることを願っております。また、9月事業の幸衛の部屋では、富樫幸衛副議長をコーディネーターに迎え、歴代理事長をパネリストにお迎えし、これまでの活動やこれからのLOMのビジョンについてお話頂きました。歴代理事長の皆様ご協力ありがとうございました。最後になりますが、今年度、私の担当副理事長の恩田議長、そして担当室長の富樫副議長をはじめLOMビジョン策定会議のメンバーの皆様1年間本当にありがとうございました。

## LOM ビジョン策定会議 副総括 小林健治郎

---

「今こそ公益法人格取得に向けた先駆者となり LOM と地域に未来を描こう！」という今間総括の掲げた委員会テーマをもとに一年間活動させて頂きました。

新定款の作成にあたり、現定款を新たにデータ入力した事と、定款策定会議の議事録作成は、なかなか骨の折れる根気のいる作業でした。

9月事業「幸衛の部屋」では、歴代理事長の JC での経験や思い、また、新法人格の内容を SEXY なコスチュームをまとった富樫幸衛副議長から聞き出して頂き、メンバーの方に楽しく伝えられたと思います。

9月例会の安里直前会頭の講演会は、直前会頭の話術の巧みさと頭の回転の速さ、そして、JC 運動への熱い思いを感じ、その迫力に会場が圧倒されていた様に思います。

委員会終了後に、度々カレー屋さん、ラーメン屋さんに行って太ってしまいました。

最後に、恩田議長、富樫副議長、今間総括、東一さん、土門さん、ご協力頂きました皆様、お世話になりました。

## 会務事務局 会務セクレタリーグループ 会務理事 齋藤亮一

---

「率先垂範」をテーマに一年間、事務局とセクレタリーメンバーとともに歩んできました。対外・対内においても Jaycee としての誇りを持ち、積極的に自らが考え、学び、実行することが出来たのではないかと思います。LOM 運営に携わるすべての事業に関わる事が職務であり、公益を重視した今年度の活動に四苦八苦されながらも、奮闘してまいりました。

様々な課題に立ち向かう中で、多くの人との新しい出会い、また多くの発見が出来た事と思われれます。年頭から比べると着実にセクレタリーメンバーのスキルが向上していく姿をみて、次年度に繋がる何かを発見できたのではないかと思います。

素晴らしいスタッフに恵まれたことを感謝しております。

## 会務事務局 会務セクレタリーグループ 副会務理事 松田博美

---

今年1年間副会務理事として務めさせて頂きました。ラストイヤーでもありましたので、私にとってはいかに会務セクレタリーに事務局としての役割を理解してもらうか、今後の鶴岡青年会議所をささえていく人たちの育成をしようという1年間でありました。

自分が動く事は非常に簡単なのですが、人に理解してもらい、動いてもらう事は非常に難しい事です。

セクレタリーの皆様には期待するあまりにきつい事をたくさんいいましたが、すべて成長してもらいたかったからです。許してください。

少しでも後輩たちに私の思いが伝わっていればうれしいです。

理事長をはじめ、専務、特別財政局長、事務局長、会務理事には本当にお世話になり、ありがとうございました。

まず始めに、この委員会に配属させて頂きありがとうございました。

本年、会員拡大推進チームという事で1年間頑張らせて頂き、4月の新入会員歓迎会に向け刻々と迫る中、本年のスローガンである実践躬行を遂行させていただきました。目標人数を達成させる事はできませんでしたが、沢山のメンバーに支えられてこの委員会、そして自分自身は成り立っているのだなぁと改めて実感させられました。

また、先日開催されましたクリスマス家族交流会では、本年、正会員となりましたメンバーの思いが詰まった楽しい事業を開催する事ができました。常任理事、理事会での意見を新入会員メンバーみんなで向き合う姿は、この会が会長、副会長を中心に素晴らしいまとまりを感じ取れました。出席されましたメンバー、意見を頂いたメンバー感謝の一言では現わせない位、感動しています。

青年会議所は単年度制ではありますが、この経験は、次年度の事業に必ず活かせると思いますので、また、1年宜しく申し上げます。

監事 工藤規行

---

2010年度監事を仰せつかり、この1年間を振り返ってみると、監事という職務がいい意味での違和感を感じた1年だったと思う。これまでは何々の担当という特定の職務が必ずあり、雰囲気はどちらかといえば一方向のものだった。しかし民法でいう監事というものが団体の業務や財産の監査と、微妙に難しいと言うこともあり、サイレント・エディターに徹しようと、会議では監事講評以外は極力発言しないように努めた。これがいいのかどうかは別として、協議・審議中の人の質問意見を聞くことが実に重要だということに気付いた。これは今までは自ら挙手して発言できたスタイルを自ら封印し、「言いたいけどもみんながどうするか」ということへの他人への期待と「自分が言えば・・・」という自身への葛藤という2つの要素の違和感だった。その違和感が何かしの大人を感じさせられるようだったらよかったのだが、監事講評でその葛藤のほうを思いっきり排出してしまい、自分自身何を言っているのかわからなくなりかけた時間が結構あったのは恥ずかしながら反省点である。しかしこの反省をできたことと、拙い監事講評に延々お付き合いいただいたメンバーの皆さんに改めて感謝したい。

# —出向者報告—

公益社団法人 日本青年会議所 708LOM サービス実践特別委員会 委員 松田博美

私が出向させて頂いた 708LOM サービス実践特別委員会は JCI 公認と日本 JC 公認のトレーニングを開催する事と、現役のトレーナーを養成する事を目的に活動して参りました。最初の頃はトレーニングの世界の専門用語がさっぱりわからず、理解するまでにかなり時間がかかりました。

トレーナーになるには、「Presenter」というプレゼン能力を高める 1 日間のセミナーと「Trainer」というトレーニングを開催する立場の方のための 2 日間の JCI 公認のセミナーを受講する必要があります。

その後 25 時間の実施訓練を経て晴れてアシスタントトレーナーになれます。さらにその後段階を経てヘッドトレーナーというステップにあがります。

708 の委員は受講必須という事で私もこれら 2 コースのトレーニングを受講し、晴れてトレーナー

の卵となりましたが、25 時間の訓練を受ける前に卒業を迎える事となり、非常に残念ですが、1 年間 1 回欠席したのみでほとんど委員会には出席させて頂きました。出向をご承認頂いた佐藤理事長、ありがとうございました。

東北地区協議会 東北青年フォーラム運営委員会 会務担当副会長 佐々木一広

今年度は、公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会へ東北青年フォーラム担当 会務副会長として出向させて頂きました。

鶴岡青年会議所からは 2001 年の板垣昌之先輩以来の会務副会長であると記憶しておりました。(たぶん・・・) 出向するにあたり、佐藤直前理事長、佐藤理事長をはじめ多くの方にご尽力いただきありがとうございました。フォーラム担当ということで、全ての LOM メンバーの方より、昨年度の総会時にフォーラム全員登録の心強いご支援をいただき、そのおかげもあり近年には無い 1870 名もの参加登録を地区全体から頂くことも出来き、無事に開催し次年度の花巻大会へと繋ぐ事ができました。

2005 年に専務理事をして以来、ブロック・地区・日本と様々なフィールドで活動する機会をいただけてきましたが、後押しをしてくれた先輩や仲間には感謝で一杯です。時間もお金も必要になりますが、その分以上に自己管理をするスキルを身につけさせていただきました。

まだまだ、「出向は・・・」というメンバーも多く見受けますが、自己の成長、会社の発展にも大きく影響を与えてくれるのが出向であったと実感しております。今後も、ここ鶴岡で活躍し続けるメンバーが鶴岡だけに留まらず、もっともっと広いフィールドで活躍する姿を OB という立場から見続けたいと思っております。ありがとうございました。

東北地区協議会 東北青年フォーラム運営委員会 委員 伊藤義徳

---

私は2010年度東北地区協議会 東北青年フォーラム運営委員会に出向させていただきました。入会2年目にして東北地区出向という素晴らしい経験をさせていただき大変感謝しております。他の委員会メンバーはベテランばかりで何もわからないのは私だけ。委員会開催も「青年フォーラム」の今年の開催地の泉、そして、花巻、五所川原、鶴岡と東北各地で行われました。時間の都合により委員会を欠席したことも何度かありましたが、9月4日、5日のフォーラム当日は運営に携われとてもほっとしています。

フォーラムでは、1日目は街頭でのフォーラムの案内、2日目はエンディングセレモニーのサポートが担当でした。準備段階ではみんなが意見をだし一つ一つ創り上げていく過程、また当日もとても暑い中でのチラシ配り等も手の空いたメンバーからの積極的な手伝い等みんなが協力してのフォーラムでは委員会メンバーのパワーのすごさに感心。

何か月もかけて創り上げていく過程に携われることが出来、楽しく過ごすことが出来ました。佐々木一広君、板垣一紀君にいろいろ教えていただき感謝しております。

委員会、そして青年フォーラムに何か協力できたのかどうかわかりませんがとても素晴らしい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

東北地区協議会 地域から頼られるJC確立委員会 委員 結城俊一

---

今年度はじめて出向させていただきました事 LOM の皆様に感謝もうしあげます。はじめての出向で不安な面もありましたが、作田副会長・柴崎委員長・各副委員長・委員メンバーに恵まれ大変優秀な方々の下安心して活動させていただく事ができました。また、LOMより一緒に出向させていただきました。三浦君とも毎月の委員会を共に楽しみにして出席させていただき、東北各地の様々な環境にある各 LOM での委員会開催大変学ぶべきところがありました。同じ志で運動している仲間がどのような環境でどのような地域でどのように日々考えどのように運動しているのか、実際に目で見て、聞く事ができました。目指す事は同じでも様々な考え方があり、状況があります。我々鶴岡JCが恵まれた環境の中で活動させていただいていること、そして東北地区協議会の中での誇れる鶴岡JCの環境、改めてこの地域の皆様、そして現在に至るまでの鶴岡JC O Bの皆様が築き上げられた事に感謝して、今後の青年会議所運動へ生かして行きます。一年間ありがとうございました。

東北地区協議会 地域から頼られる J C 確立委員会 委員 三浦成希

地域から頼られる J C 確立委員会への出向は、入会して初めての出向で皆勤させていただきました。東北地区の各 LOM への公益社団法人格取得にあたるセミナーや、アドバイザーとの説明会など、地区での活動でより広い意味での青年会議所活動の内容を知る事ができました。

また、災害支援を目的としたターズネットの各 LOM への理解は、東北青年フォーラムで沢山の LOM メンバーに納得して頂いたのではないのでしょうか。

委員長の下、東北 6 県を舞台に沢山のひとと出会いお話を伺う事で、今後、鶴岡の為に経験を活かして行きたいと思います。

山形ブロック協議会 やまがた未来創造委員会 委員長 渡辺孝之

記念すべき、入会 10 年目にブロック委員長を拝命いただきました。

2010 年度山形ブロックでは、「曇りなき「心の月」で明日を照らす」の理念のもと、「情熱を胸に！たくましい JAYCEE による夢と希望溢れる輝きに満ちた「やまがた」の創造」をスローガンに、真の民主主義国家の創造へと一年間努めさせていただきました。

「世界に輝く日本」に向けた真の民主主義国家創造として、今年度が 2 年目となった、全国一斉憲法タウンミーティングを憲法記念日に開催しました。当日は、ショッピングセンターでのラジオ公開生放送で、日本国憲法、5 月 18 日に施行された憲法改正国民投票法に関する国民としての権利と義務に関心を高めてもらい、憲法を身近に考えていただくことを目的としました。さらに、「たくましく生き抜く国民意識の醸成」として、領土・領海問題解決へ向けた全国一斉 100 万人署名運動を県内各所での署名運動を通し、自国の領土・領海問題への理解から、国益を考え、「自らの手で自国を守る」といったたくましさをもってもらうことを目的としました。またまた、「日本再生に貢献しうる輝く地域の創造」として、自ら地域の未来を切り拓くという意識のもと、各種選挙における公開討論会開催を通し、有権者一人ひとりが政治に関心をもち、次世代に胸を張って渡せる地域づくりのために、自らが主役となり、自らの国は自らの手で創るという意識醸成を目的としました。

一年を通じて、県民意識の醸成へ邁進してきたつもりです。その経験から、相手に思いを伝えることの難しさ、楽しさを学びました。最後に、一年間支えていただいたメンバーの皆様、ありがとうございました。

山形ブロック協議会 アカデミー委員会 副委員長 松田美佳

---

2010年は、私にとって本当に貴重な一年となりました。

この出向は、従来の私の守備範囲を遙かに超え、事業の企画と立案そして運営に至るまで、社会人として必要な様々な要素を勉強させて頂きました。アカデミー委員会の醍醐味は、県内17LOMから出向している57名の塾生とサポートするスタッフ全員のベクトルを合わせ、共に事業を成功することが出来た時の達成感です。この感覚はJC活動のみならず、自らの仕事へも反映していくこととなります。仕事で負のスパイラルに陥った時も「アカデミーがあるから」と気分を変えて委員会に参加しリフレッシュしたお陰で、違う角度で物を見るきっかけが出来、問題を解決するに至りました。

知識のない分野に足を踏み入れるということは、社会人としての経験値を積み重ねるほど簡単なことではなくなります。しかし、困難な道でも仲間と楽しんで得た経験は、従来の自分よりも何倍も進化するということを学ばせて頂いたような気がします。

この度の出向経験を今後のステージに活かすべく、自身をブラッシュアップし続けなければならない、今、心からそう感じています。出向させて頂き本当にありがとうございました。

山形ブロック協議会 やまがた未来創造委員会 幹事 今間智寛

---

本年は鶴岡青年会議所に入会してから2回目の出向を仰せつかり、山形ブロック協議会やまがた未来創造委員会の幹事として出向させて頂き誠にありがとうございました。今年のやまがた未来創造委員会では、領土領海問題の署名運動や5月に行われた憲法タウンミーティング、そして公開討論会と1年間を通して非常に忙しく、山形ブロック内を駆け回る1年でした。やまがた未来創造委員会の活動で私が一番印象に残ったのは、各首長選挙で当委員会は17LOMの支援という形で活動をさせて頂きましたが、他LOMの理事長さんが公聴者に対して一人一人にお出迎えをし、お声がけをされている理事長さんの姿が非常に印象に残りました。そして、各地区で委員会を開催するときには委員会以外のメンバーからも設営のお手伝いをして頂き、たくさんのメンバーからご協力をして頂きました。本当にありがとうございました。最後になりますが、同じLOMメンバーとして1年間一緒に頑張ってくれた渡辺委員長、そして筒井君や孝一君と一緒に山形県民に対してこういった活動が出来て本当に良かったです。皆様、ありがとうございました。

2010 年度初めての理事を経験し、そして、初めて山形ブロックに出向することになりました。私の当初の予定では、アカデミー委員会に塾生として出向するはずでした。入会して3年目まででない塾生として出向できないと聞いていたからです。

ところが、蓋を開けてみれば松田美佳塾長から頂いたオファーは、幹事として一緒に出向して欲しいとの事でした。幹事の役職が何をやるものなのか分からず、LOMでも副委員長という役を受けた後だったので、委員長が了承してくれれば良いと返事をしました。きっと委員長が断ると思っていたからです。

しかし、その思いもあっさりと松田塾長の説得で覆され、「大丈夫だから。」と言う同い年の彼女の言葉にうなずいていました。

実際、幹事の役割は塾生の出欠を取りまとめたり、月に1度のスタッフ会議に出たり、受付や会場の設営などでしたが、スタッフ会議には仕事が終わってからしか参加できず、いつも終了間

際でしたし、7月の月山登山も仕事で欠席しました。塾生の出欠取りまとめも、なかなか思うように行かず、電話にさえ出してもらえないこともありました。「幹事として役に立ってるのかな。」

と、思うことも度々でした。しかし、いつも一生懸命に取り組んでいる加籐委員長や、塾長、スタッフの皆さんを見て、そして、いつも参加してくれる塾生の皆さんと活動できることがとても楽しくて、「出向して良かった。」と思えるようになりました。

出向という機会を頂いたことに今は感謝しています。ありがとうございました。



2009年に佐藤智信理事長のもと LOM 事務局長を仰せつかり、会員会議所会議や日本 JC 三大大会などに参加し、初めて『出向ってなんだんや』という疑問の1つが解決したような気がしました。

そして迎えた2010年。わたしが2年目に出向したアカデミー委員会を除けば、初めての主体的なブロック出向。

県内各所の LOM メンバーとの出会いや、様々な事業を通じての気づきを楽しみに出向しました。

が、しかし。

BL出向はなかなか難しいもので、メンバーはなかなか参加してくれず。

よく委員会でお会いしたのが、

担当BL 副会長・酒田 JC の伊藤正佳くん、委員長・鶴岡 JC の渡辺孝之くん、2名いる副委員長のうち酒田 JC の三浦正志くん、幹事・鶴岡 JC の今間智寛くん。でフォロアーメンバーでは鶴岡 JC の齋藤孝一くんと酒田 JC の佐藤淳平くん。

おわかりかと思いますが、全て第一エリアのメンバーです。

皆、この4年弱のJC活動で知り得た旧知の仲間が大半を占める委員会を繰り返すことになったのです。“山形ブロック協議会”とは名ばかりの、ほぼ“庄内2LOM 委員会”を繰り返すこととなったのです。

そんな中ではありますが、渡辺委員長の奮闘ぶりには頭が下がる思いでした。修練もここまで来ると忍耐です。

『JCとはできないことをやれるようになるのがJCだ』とは諸先輩方のお言葉で、一理あることではありますが、やはり大変でしたね、委員長。1年間、あまり活躍できずすいませんでした。

開催されるであろう、委員会打ち上げIN第一エリア、楽しみにしています！

私はアカデミー委員会にはほとんど出向する事ができなかったのですが、  
今も忘れられない思い出があります。

アカデミー委員会の後半、地元鶴岡で開催された時の話です。

仕事の都合で私は、開校式とそれに続いて行われた講演会にしか出席できませんでした。

地元開催であり、どちらかといえば講演会の後がメインでしたので、

出席率の低かった私はどこか居心地の悪い思いを引きずったまま退席しました。

後日、LOMの例会で受付の仕事をしていた時、アカデミーの塾長の姿が見えました。

私の心は気まずさでいっぱいになりました。

できれば顔を合わさずにやり過ごしたい、そう思っていたのですがそうはいきません。

しかし。

受付の為まっすぐこちらに来た塾長が、私に最初におっしゃったのは、

「秋山君、この間はアカデミーに参加してくれて本当にありがとうね。」という一言だった  
のでした。

私はとても驚きました。

自分が同じ立場だったとしても、そういった言葉をかけようとは思えなかったからです。

これが感謝か、と胸を打たれたような思いになりました

来年度はご縁あって東北地区協議会に出向させて頂く事になりました。

そしてもちろん、今も私の心にはあの時の一言が生きています。

私は委員長があの時見せてくれた「感謝の姿」を忘れる事なく、2011年度も頑張っていこう  
と思います。

今年度アカデミー生として出向させて頂き、残念ながら全事業出席する事は出来ません  
でしたが県内のLOMのアカデミー生との出会いは大変貴重なものとなりました。

委員長をはじめとし、塾長の方々は大変なご苦勞の元アカデミー生をけん引して頂きました。  
この出会いであり、経験は今後の自分の大きな経験・財産になる事でしょう。

閉校式で見た委員長の涙、これまでの苦勞や感謝の意味、感動が詰まっていたものだと  
痛感いたしました。アカデミー生として、人としての繋がりや仲間は一生の宝であると共  
に今後のJAYCEEとしての活動にも反映して行く礎になった事と思われま。

末筆ではございますが出向をさせて頂いた理事長をはじめLOMの皆様・アカデミー委員長・  
塾長の方々に心より感謝致したいと思ひます。

私は JC 入会したのも昨年でまだまだ右も左も分からず、ましてやアカデミー委員会というものも分からない状態でしたが先輩の勧めで「面白いから、ためになるから、参加して損はない」といわれ出向することになりました。

内容としては、たくましい JAYCEE 育成を目標に『心・技・体』を鍛える。自己の確立、企画力、組織力、行動力を学ぶことを活動しました。

1 つ目は「心」開校式に始まり、県内各 LOM から選ばれたアカデミー生と初顔合わせをし、その後に長谷川副会頭の新春基調講演、「JC は郷土を導き国を変える光明たれ！」～青年として社会を学び、ひとを想い、そして己に向き合う～という演題でした。その他にも 5 月と 10 月にも講演会が二つありました。

2 つ目は「技」家族事業として季節外れのいも煮会と題し、みんなで企画・運営をし、エコをテーマにゴミのペットボトルでペットボトルロケットを作成し間伐材を利用し My 箸づくりを行いました。

3 つ目に「体」月山登山です。自分は花火大会が近く、会場設営部会長の立場から準備に追われ、月山登山は参加出来ない状況でしたが、会議所で花火の準備をしている AM2 時くらいに花火委員会、渡部委員長からアカデミー委員に花火の PR と花火の祈願を兼ねて、「月山に登るぞ！」といわれ、AM3 時から月山に向かい登りました。

自分は後から登った月山も参加扱いにして頂き、パーフェクト賞も頂きました。アカデミー委員会に出向したことでいろいろな事を経験、学ばさせて頂きました。出向することになった経緯は曖昧なものでしたが、アカデミー委員会が終わったときに自分を一つも二つも成長させてもらった委員会でした。各 LOM から数人の出向しかできない中、お声を掛けて頂きありがとうございました。

貴重な経験ができ、本当に良かったと感謝しております。

# —卒業にあたって—

佐々木一広

---

平成9年に入会して以来、14年間という長い期間にわたり鶴岡青年会議所の数多くのOBや現役の皆さまに支えていただき、無事(?)に本年卒業を迎えることが出来ました。入会して、この14年間でいったい何が変わったのだろうか?縁も所縁もないこの鶴岡で数え切れないほどの人々と出会い、様々な運動を通して多くの仲間を得ることもできました。私の鶴岡での生活はJCが中心にあり、JCと出会う事が無かったら、どんな道を行っていたのだろうか? きっかけは天童JCのあるOBからの一言でした。「お前みたいに人脈の無い奴はJCに入って修行して来い!」JCとは何なのか?全く分からず、しかし疑う事も躊躇することも無く当時の拡大委員会メンバーに電話をし、入会してしまいました。思い返せばこの頃から、「はい」か「YES」を自ら実践していたような気がします。既にOBとなられているこの方は、何故私に声を掛けてくれたのであろうか?同業者ではありませんでしたが、地域も違い一緒に活動している訳でもありませんでした。全てのメンバーのみなさんも何らかの縁があつての入会だと思います。そのきっかけを創ってくれた人たちは何故あなたに声をかけたのでしょうか?その人はきっと、いや、間違いなく自分たちの地域やそこに住む人々を愛し、未来を担う子どもたちの為に自信と誇りをもってJC運動を実践してきたからだと確信しております!

JCだけではありません、仕事も家庭もPTAやその他多くの団体で活躍している、みなさんと共に過ごせた事を誇りに、そして次のステージでの自信として今後も、地域で運動を展開していきます。

長い間本当にありがとうございました!

畑山 馨

---

平成13年に入会し9年間お世話になりました。30歳で入会し40歳で卒業は自分では長いようであつという間だったなと思います。入会していなければ出来ない出会いや経験をさせて頂きました。

中でも東北青年フォーラム in 鶴岡は印象に残った事業です。あんなにバタバタしながら夜中まで何をしていたのか。もちろん皆さんの協力があり素晴らしい事業の成功と思い出となりました。

赤川花火大会では毎年多くの仲間と共にあれだけ大きな事業に携われ、それも卒業の年に20回記念大会にも参加でき、最高の思い出となりました。

数年前に病気に見舞われ一時退会も考えましたが、委員会に参加のお声掛けを頂き再度復帰することができました。皆さんには感謝です。本当にありがとうございました。

## 上鉢功一

---

平成14年に入会して約9年最初は長く感じましたが終わってみれば短い9年でした。よく知るOBの薦めと先輩達のようにリーダーシップのとれる人間になりたいという思いとJCってどうゆう団体なのか興味があったので入会したわけですが、一緒に卒業するはずの当時の拡大委員長は退会し少し残念に思っている今日このごろです。始めは、面倒くさいし容易でないことする団体だなあと思っておりましたが、理事を経験して青年会議所活動のすごさや目的意識の高さにそこまでやるかと感動したものです。フロアメンバーの皆様チャンスがあれば少し無理をしても一度は理事を経験して卒業して下さい。容易でないことを仲間と一生懸命やり、事業をやり終えた時の達成感、感動はなにものにも変えられない良いからものとなります。9年間ありがとうございました。来年は柗席で花火を観させていただけます。期待してるよ！

## 松田博美

---

平成18年度に入会し、5年間活動させて頂きました。

あっという間にこの時を迎えてしまったという印象です。私にとって青年会議所は居心地のよい場所でした。ここでは自分が女性であるという事を忘れ、1人の人間として活動して参りました。素晴らしい団体に所属できて、素晴らしい仲間と出会えて感謝しています。頑張っただけ、自分に返ってくるものがありましたし、本当に他のメンバーには励まされました。

これから卒業してもいろいろな場で会う機会があると思いますが、これからも宜しく願いいたします。OBとして(社)鶴岡青年会議所のご活躍を応援しています。

## 阿部 勝

---

2007年度に入会し、同期会会長としてクリスマス家族会を同期メンバーと一緒に関わらせていただいたのが私のJCライフの始まりでした。厳つい顔で事あるごとに斜に構える癖がある私がJCに馴染めたのは人と人との繋がりのお蔭でした。

同期メンバー、拡大担当の方々、配属された委員会のメンバーと話をし、活動をともにして事業を創っていくことでその繋がりが深まり広がっていきました。青年といえる最後の4年間をJCという『学校』に入ったことで仲間ができ、議論ができ、奉仕のころを学ぶことが出来ました。卒業してから本当のJAYCEEとしての活動が始まると自らに言い聞かせて今後も地域の為にJCでの経験を微力ながら傾注していきたいと思っております。青年会議所は何でも出来る場所です。教えてもらうのではなく自ら学び行動することで可能性を嵩めていく場所です。是非様々なことに挑戦し色々なところで活躍してください。

『真摯さ』は裏切りません。JCに携わるすべての皆さまに心より深く感謝して今後の活躍をご祈念いたします。追い出してくれてありがとう。

社団法人鶴岡青年会議所  
収支計算書

2010年1月1日から2010年12月31日

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
①入会金収入	345,000	345,000	0	
入会金収入	345,000	345,000	0	
②会費収入	12,093,700	12,057,300	36,400	
正会員会費収入	9,790,000	9,790,000	0	
新入会員会費収入	1,883,700	1,847,300	36,400	
特別会員会費収入	90,000	90,000	0	
賛助会員会費収入	330,000	330,000	0	
③事業収入	1,791,800	833,049	958,751	
登録料収入	1,361,800	375,800	986,000	
販売収入	430,000	457,249	△ 27,249	
④補助金等収入	7,150,650	7,150,650	0	
国庫補助金収入	0	0	0	
民間補助金収入	7,150,650	7,150,650	0	
⑤雑収入	150,000	132,127	17,873	
受取利息収入	10,000	3,493	6,507	
その他雑収入	140,000	128,634	11,366	
⑥前受金収入	0	0	0	
事業活動収入計	21,531,150	20,518,126	1,013,024	
<b>2. 事業活動支出</b>				
①事業費支出	14,425,701	13,472,549	953,152	
会場設営費支出	4,709,732	4,689,595	20,137	
企画・演出費支出	3,063,617	2,977,050	86,567	
本部関係費支出	0	0	0	
講師関係費支出	2,316,299	2,273,209	43,090	
広報費支出	1,664,738	1,600,152	64,586	
資料作成費支出	1,038,831	736,070	302,761	
報告書作成費支出	15,300	6,997	8,303	
懇親会費支出	473,120	378,520	94,600	
渉外費支出	18,900	18,900	0	
旅費交通費支出	218,500	243,158	△ 24,658	
参加記念品代支出	284,058	220,238	63,820	
保険料支出	156,370	134,742	21,628	
通信費支出	217,030	174,780	42,250	
雑支出	22,236	19,138	3,098	
予備費支出	226,970	0	226,970	
②管理費支出	4,583,000	4,391,043	191,957	
給料手当支出	1,050,000	1,038,921	11,079	
会議費支出	15,000	0	15,000	
旅費交通費支出	0	174,728	△ 174,728	
通信運搬費支出	148,000	186,483	△ 38,483	
広報費支出	0	320,000	△ 320,000	
消耗品支出	430,000	371,577	58,423	
修繕費支出	220,000	204,491	15,509	
印刷製本費支出	650,000	631,150	18,850	
水道光熱費支出	650,000	644,760	5,240	
リース料支出	160,000	160,272	△ 272	
保険料支出	50,000	42,660	7,340	
租税公課支出	40,000	0	40,000	
渉外費支出	1,130,000	281,365	848,635	
事務雑支出	0	276,079	△ 276,079	
管理雑支出	40,000	58,557	△ 18,557	
③負担金支出	1,887,710	1,859,110	28,600	
日本JC会費支出	572,500	544,840	27,660	
JCI会費支出	154,560	153,620	940	
国際協力金支出	204,400	204,400	0	
出向者負担金支出	90,000	90,000	0	
WE BELIEVE購読料支出	272,750	272,750	0	
地区負担金支出	138,500	138,500	0	
ブロック負担金支出	455,000	455,000	0	
④前受金支出	240,000	240,000	0	
事業活動支出計	21,136,411	19,962,702	1,173,709	
事業活動収支差額	394,739	555,424	△ 160,685	
<b>II 投資活動収支の部</b>				
<b>1. 投資活動収入</b>				
投資活動収入計	0	0	0	
<b>2. 投資活動支出</b>				
①固定資産取得支出	450,000	112,500	337,500	
什器備品購入支出	450,000	112,500	337,500	
②定期預金預入支出	230,000	230,000	0	
投資活動支出計	680,000	342,500	337,500	
投資活動収支差額	△ 680,000	△ 342,500	△ 337,500	
<b>III 財務活動収支の部</b>				
<b>1. 財務活動収入</b>				
財務活動収入計	0	0	0	
<b>2. 財務活動支出</b>				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
<b>IV 予備費支出</b>				
予備費支出	0	-	0	
当期収支差額	△ 285,261	212,924	△ 498,185	
前期繰越収支差額	1,946,813	1,946,813	0	
次期繰越収支差額	1,661,552	2,159,737	△ 498,185	

社団法人鶴岡青年会議所  
正味財産増減計算書

2010年1月1日から2010年12月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
① 受取入会金	345,000	315,000	30,000
受取入会金	345,000	315,000	30,000
② 受取会費	12,057,300	11,549,900	507,400
正会員受取会費	9,790,000	9,460,000	330,000
新入会員受取会費	1,847,300	1,719,900	127,400
特別会員受取会費	90,000	60,000	30,000
賛助会員受取会費	330,000	310,000	20,000
③ 事業収益	833,049	705,900	127,149
登録料収益	375,800	705,900	△ 330,100
販売収益	457,249	0	457,249
④ 受取補助金等	7,150,650	2,985,000	4,165,650
国庫補助金収入	0	0	0
民間補助金収入	7,150,650	2,985,000	4,165,650
⑤ 雑収益	132,127	154,427	△ 22,300
受取利息	3,493	2,892	601
その他雑収益	128,634	151,535	△ 22,901
<b>経常収益計</b>	<b>20,518,126</b>	<b>15,710,227</b>	<b>4,807,899</b>
(2) 経常費用			
① 事業費	13,472,549	10,030,790	3,441,759
会員拡大プロジェクト事業費	0	303,463	△ 303,463
事務渉外委員会事業費	0	995,391	△ 995,391
広報委員会事業費	0	1,031,674	△ 1,031,674
政策委員会事業費	0	1,394,563	△ 1,394,563
青少年委員会事業費	0	2,938,720	△ 2,938,720
地域コミュニティ委員会事業費	0	905,444	△ 905,444
交流委員会事業費	0	395,475	△ 395,475
会員大会支援委員会事業費	0	364,262	△ 364,262
日本一花火委員会事業費	0	1,701,798	△ 1,701,798
会場設営費	4,689,595	0	4,689,595
企画・演出費	2,977,050	0	2,977,050
本部団関係費	0	0	0
講師関係費	2,273,209	0	2,273,209
広報費	1,600,152	0	1,600,152
資料作成費	736,070	0	736,070
報告書作成費	6,997	0	6,997
懇親会費	378,520	0	378,520
渉外費	18,900	0	18,900
旅費交通費	243,158	0	243,158
参加記念品代	220,238	0	220,238
保険料	134,742	0	134,742
通信費	174,780	0	174,780
雑費	19,138	0	19,138
② 管理費	5,267,488	4,502,256	765,232
給料手当	1,038,921	1,034,331	4,590
会議費	0	0	0
旅費交通費	174,728	0	174,728
通信運搬費	186,483	40,461	146,022
広報費	320,000	0	320,000
減価償却費	876,445	903,776	△ 27,331
消耗品費	371,577	371,160	417
修繕費	204,491	50,925	153,566
印刷製本費	631,150	235,725	395,425
水道光熱費	644,760	601,874	42,886
リース料	160,272	160,272	0
保険料	42,660	40,680	1,980
渉外費	281,365	444,934	△ 163,569
事務雑費	276,079	549,342	△ 273,263
管理雑費	58,557	68,776	△ 10,219
③ 負担金	1,859,110	1,899,590	△ 40,480
日本JC会費	544,840	562,500	△ 17,660
JCI会費	153,620	138,240	15,380
国際協力金	204,400	197,100	7,300
出向者負担金	90,000	155,000	△ 65,000
WE BELIEVE購読料	272,750	266,250	6,500
地区協議会負担金	138,500	135,500	3,000
ブロック協議会負担金	455,000	445,000	10,000
<b>経常費用計</b>	<b>20,599,147</b>	<b>16,432,636</b>	<b>4,166,511</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>△ 81,021</b>	<b>△ 722,409</b>	<b>641,388</b>
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
<b>当期経常外増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>△ 81,021</b>	<b>△ 722,409</b>	<b>641,388</b>
<b>一般正味財産期首残高</b>	<b>31,693,878</b>	<b>32,416,287</b>	<b>△ 722,409</b>
<b>一般正味財産期末残高</b>	<b>31,612,857</b>	<b>31,693,878</b>	<b>△ 81,021</b>
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>指定正味財産期首残高</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>指定正味財産期末残高</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>31,612,857</b>	<b>31,693,878</b>	<b>△ 81,021</b>

社団法人鶴岡青年会議所  
正味財産増減計算書内訳表  
2010年1月1日から2010年12月31日まで

(単位:円)

科目	公益目的事業会計				その他会計 会員資質向上事業	法人会計	内部取引 引消去	合計
	地域発展推進事業	青少年育成事業	共通	小計				
<b>I 一般正味財産増減の部</b>								
<b>1. 経常増減の部</b>								
(1) 経常収益								
① 受取入金金	0	0	115,000	115,000	0	230,000	0	345,000
受取入金金	0	0	115,000	115,000	0	230,000	0	345,000
② 受取会費	0	0	6,631,515	6,631,515	1,808,595	3,617,190	0	12,057,300
正会員受取会費	0	0	5,384,500	5,384,500	1,468,500	2,937,000	0	9,790,000
新入会員受取会費	0	0	1,016,015	1,016,015	277,095	554,190	0	1,847,300
特別会員受取会費	0	0	49,500	49,500	13,500	27,000	0	90,000
賛助会員受取会費	0	0	181,500	181,500	49,500	99,000	0	330,000
③ 事業収益	457,249	91,800	0	549,049	284,000	0	0	833,049
登録料収益	0	91,800	0	91,800	284,000	0	0	375,800
販売収益	457,249	0	0	457,249	0	0	0	457,249
④ 受取補助金等	5,890,650	0	0	5,890,650	0	1,260,000	0	7,150,650
国庫補助金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
民間補助金収入	5,890,650	0	0	5,890,650	0	1,260,000	0	7,150,650
⑤ 雑収益	0	0	0	0	0	132,127	0	132,127
受取利息	0	0	0	0	0	3,493	0	3,493
その他雑収益	0	0	0	0	0	128,634	0	128,634
経常収益計	6,347,899	91,800	6,746,515	13,186,214	2,092,595	5,239,317	0	20,518,126
(2) 経常費用								
① 事業費	11,711,944	584,797	0	12,296,741	1,175,808		0	13,472,549
会場設営費	4,397,694	12,490	0	4,410,184	279,411		0	4,689,595
企画・演出費	2,647,598	156,454	0	2,804,052	172,998		0	2,977,050
本部関係費	0	0	0	0	0		0	0
講師関係費	2,269,709	0	0	2,269,709	3,500		0	2,273,209
広報費	1,591,388	8,566	0	1,599,954	198		0	1,600,152
資料作成費	624,665	2,294	0	626,959	109,111		0	736,070
報告書作成費	6,997	0	0	6,997	0		0	6,997
懇親会費	0	0	0	0	378,520		0	378,520
渉外費	13,650	5,250	0	18,900	0		0	18,900
旅費交通費	0	99,400	0	99,400	143,758		0	243,158
参加記念品代	16,041	189,597	0	205,638	14,600		0	220,238
保険料	30,360	101,610	0	131,970	2,772		0	134,742
通信費	103,960	0	0	103,960	70,820		0	174,780
雑費	9,882	9,136	0	19,018	120		0	19,138
② 管理費						5,267,488	0	5,267,488
給料手当						1,038,921	0	1,038,921
会議費						0	0	0
旅費交通費						174,728	0	174,728
通信運搬費						186,483	0	186,483
広報費						320,000	0	320,000
減価償却費						876,445	0	876,445
消耗品費						371,577	0	371,577
修繕費						204,491	0	204,491
印刷製本費						631,150	0	631,150
水道光熱費						644,760	0	644,760
リース料						160,272	0	160,272
保険料						42,660	0	42,660
渉外費						281,365	0	281,365
事務雑費						276,079	0	276,079
管理雑費						58,557	0	58,557
③ 負担金						1,859,110	0	1,859,110
日本JC会費						544,840	0	544,840
JCI会費						153,620	0	153,620
国際協力金						204,400	0	204,400
出向者負担金						90,000	0	90,000
WE BELIEVE購読料						272,750	0	272,750
地区協議会負担金						138,500	0	138,500
ブロック協議会負担金						455,000	0	455,000
経常費用計	11,711,944	584,797	0	12,296,741	1,175,808	7,126,598	0	20,599,147
当期経常増減額	△ 5,364,045	△ 492,997	6,746,515	889,473	916,787	△ 1,887,281	0	△ 81,021
<b>2. 経常外増減の部</b>								
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 5,364,045	△ 492,997	6,746,515	889,473	916,787	△ 1,887,281	0	△ 81,021
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	31,693,878	0	31,693,878
一般正味財産期末残高	△ 5,364,045	△ 492,997	6,746,515	889,473	916,787	29,806,597	0	31,612,857
<b>II 指定正味財産増減の部</b>								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	△ 5,364,045	△ 492,997	6,746,515	889,473	916,787	29,806,597	0	31,612,857



## 財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

定額法によっている。なお、主な耐用年数は次のとおりである。

建物	24年
什器備品	5～15年

2. 会計方針の変更

該当事項なし。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
社団法人鶴岡青年会議所基金				
定期預金	1,092,380	230,000	-	1,322,380
合 計	1,092,380	230,000	-	1,322,380

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち正味指定財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産				
社団法人鶴岡青年会議所基金				
定期預金	1,322,380	-	1,322,380	-
合 計	1,322,380	-	1,322,380	-

5. 担保に供している資産

該当事項なし。

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	19,007,662	10,632,421	8,375,241
什器備品	4,305,565	2,580,066	1,725,499
合 計	23,313,227	13,212,487	10,100,740

7. 保証債務

該当事項なし。

8. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当事項なし。

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
補助金						
5月例会補助金	庄内映画村(株)	-	2,300,000	2,300,000	-	-
赤川花火	花火委員会	-	4,790,650	4,790,650	-	-
全国城下町シンボリックブース出店	全城連	-	30,000	30,000	-	-
東北青年フォーラムブース出店	東北地区協議会	-	30,000	30,000	-	-
合 計		-	7,150,650	7,150,650	-	

10. 指定財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当事項なし。

11. 関連当事者との取引の内容

該当事項なし。

12. 重要な後発事象

該当事項なし。

## 一般会計収支計算書に対する注記

### 1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金及び普通預金を含めている。なお、前期末残高及び当期末残高は下記2に記載するとおりである。

### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科目	前期末残高	当期末残高
現金	66,591	32,464
預金	1,880,222	2,127,273
次期繰越収支差額	1,946,813	2,159,737

**社団法人鶴岡青年会議所**  
**貸借対照表**

2010年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	32,464	66,591	△ 34,127
普通預金	2,127,273	1,880,222	247,051
定期預金	0	0	0
<b>流動資産合計</b>	<b>2,159,737</b>	<b>1,946,813</b>	<b>212,924</b>
2. 固定資産			
(1)特定資産			
社団法人鶴岡青年会議所基金	1,322,380	1,092,380	230,000
<b>特定資産合計</b>	<b>1,322,380</b>	<b>1,092,380</b>	<b>230,000</b>
(2)その他固定資産			
建物	8,375,241	9,088,029	△ 712,788
什器備品	1,725,499	1,776,656	△ 51,157
土地	18,000,000	18,000,000	0
出資金	30,000	30,000	0
<b>その他固定資産合計</b>	<b>28,130,740</b>	<b>28,894,685</b>	<b>△ 763,945</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>29,453,120</b>	<b>29,987,065</b>	<b>△ 533,945</b>
<b>資産合計</b>	<b>31,612,857</b>	<b>31,933,878</b>	<b>△ 321,021</b>
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
前受金	0	240,000	△ 240,000
<b>流動負債合計</b>	<b>0</b>	<b>240,000</b>	<b>△ 240,000</b>
<b>負債合計</b>	<b>0</b>	<b>240,000</b>	<b>△ 240,000</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 一般正味財産	31,612,857	31,693,878	△ 81,021
(うち特定資産への充当額)	( 1,322,380 )	( 1,092,380 )	( 230,000 )
<b>正味財産合計</b>	<b>31,612,857</b>	<b>31,693,878</b>	<b>△ 81,021</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>31,612,857</b>	<b>31,933,878</b>	<b>△ 321,021</b>

**社団法人鶴岡青年会議所**  
**財産目録**


2010年12月31日現在

科目	金額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金 (一般会計) 現金手許有高	32,464		
普通預金 (一般会計) 山形銀行	1,000		
普通預金 (一般会計) 荘内銀行	1,000		
普通預金 (一般会計) きらやか銀行	1,004		
普通預金 (一般会計) 鶴岡信用金庫	2,124,269		
流動資産合計		2,159,737	
<b>2. 固定資産</b>			
(1) 特定資産			
社団法人鶴岡青年会議所基金 定期預金			
(基金会計) 鶴岡信用金庫	1,322,380		
(2) その他固定資産			
建物 (JC会館会計) JC会館	8,375,241		
什器備品 (JC会館会計) 電話設備等	1,725,499		
土地 (JC会館会計) JC会館敷地	18,000,000		
出資金 (一般会計) 鶴岡信用金庫	30,000		
その他固定資産合計	28,130,740		
固定資産合計		29,453,120	
資産合計			31,612,857
正味財産			<u>31,612,857</u>

## 監査報告書

社団法人 鶴岡青年会議所  
理事長 佐藤 正廣 殿

2011年 1月 6日  
社団法人 鶴岡青年会議所

監事 工藤規行 

監事 板垣一紀 

私達は、2010年1月1日から2010年12月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

### 1. 監査の方法の概念

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取り、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

### 2. 監査意見

- (1) 収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示しているものと認められる。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認められる。
- (3) 理事の職務執行に関する不正行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。